

指小接尾辞 -#к(-) の意味構造

中 尾 裕 子

1. はじめに

現代ロシア語の指小接尾辞は、多義的な性格を持つことで知られているが、その中でも -#к(-) (すなわち -ок, -к(а), -к(о))¹ は、特に多様な表現に用いられる。ロシア語の指小接尾辞に関する従来の研究は、概して、接尾辞によって表される様々な意味ニュアンスの列挙に留まり、異なる意味間の結びつきにまで考察の範囲を広げたものは僅かである。本稿では、認知言語学や語用論の視点を取り入れ、-#к(-) が持つ個別的意味の結びつきを整理し、その中核的意味がどのようなものであるか、という問題に迫る。従来、指小接尾辞 -#к(-) は感情的に中立的で、その中核的意味は「小さい」のみであると見なされることが多かったのに対し、本稿では、「小さい」と並んで「親愛の情」が存在するという考えを示す。

まず2章では、ロシア語学における従来の研究に基づき指小接尾辞 -#к(-) の様々な使用を概観し、問題点を明らかにする。3章では、-#к(-) の意味の構造を図式化して提示し、続く4章で、提案したモデルが -#к(-) の意味構造を矛盾なしに説明するものであることを示し、-#к(-) が肯定的な感情性を持つ表愛接尾辞であることを主張する。

2. 指小接尾辞 -#к(-) の様々な使用

指小語 (дими́нутивы / умень́шительные слова) は、「語のさす事物の寸法・度合いがごく小さいこと、または、その表す性質・程度が軽少・微弱であることなどを意味する」(『言語学大辞典』: 638) とされる派生語である。現代ロシア語では、指小語は、指小接尾辞 (дими́нутивные суффиксы / умень́шительные суффиксы) の付加によって形成される：

- (1) Я родился в небольшом городке (< город) недалеко от столицы. Дорожка (< дорога), ведущая к нашему дому, проходила через мостик.²

私は、首都からそれほど遠くない所にある小さな町で生まれた。私たちの家へは小道が通じて

いて、途中が小さい橋になっていた。

指小語は口語的・俗語的な性格を持ち、事務的な文書や格式張った場面では使用が大きく制限される。反対に、指小語の使用が特に相応しいのは親しい間柄での形式張らない会話であるが、そのような場合に限らずとも日常会話の様々な場面において頻繁に用いられる。指小語は、単に「小さい」ことを示す以外にも多様な働きを持ち得るため、古くから研究者の興味を引いてきた (Мандельштам: 326)。指小語には、多くの場合に高い感情性 (эмоциональность) を持ち評価の表現として用いられるという特徴があり、伝統的に「主観的評価 (субъективная оценка)」(Шахматов: 452-453) のカテゴリー³ の中で扱われる。普通、その表す意味ニュアンスが肯定的である場合には「表愛」(ласкательные), 反対に否定的なニュアンスを示す場合には「表卑」(уничижительные) という形容詞で示され、大まかに区別が行われる。しかし実際には、指小語は「様々な激情の表現に用いられ」(Шахматов: 452-453), 「多種多様で矛盾した様々な感情やニュアンス」(Виноградов: 101) を示すことができる。以下の例は、全て同一の指小接尾辞 -#к(-) を用いたものであるにも関わらず、「実にバラエティーに富んだ表現ニュアンス」(Виноградов: 101) が表されている：

(2) [大きい犬について]

Какая хорошенькая у вас собачка!

お宅のワンちゃん、本当に可愛いですねえ！

- (3) Икра? Конечно, люблю. Ой, я уже давно не ел икорку!

イクラですか？ もちろん、好きですよ。ああ、イクラなんて、もう長く食べてないな！

- (4) Я с уважением отношусь к неприступности Мори, но, как подумаю о бедняжке О-Юки, начинаю его ненавидеть.⁴

…森さんのお堅いのは立派だけれど、(哀れな女性である) お雪さんのことを考えると憎らしくなってしまう。

- (5) —Понял. Чушь собачья.—Почему чушь? —Потому что сказочка.⁵

「ばかげたことだ。」「どうしてばかげたことなんだ?」「お伽話に過ぎないからさ。」

- (6)
- С ума сошел Валька. Ну и денек!*
- ⁶

ヴァーリカのやつ、気が狂いでもしたか、もう、
なんて日なんだ！

ロシア語学では、現在までに指小語の使用によって表される感情的な意味ニュアンスとして、多くのものが挙げられてきた。それを参考に、(2)～(6)の例文を素直に読んだ場合における指小接尾辞の働きの説明を以下で試みよう。これらの例では、指小語で示されている対象に対する話し手の評価が示されている。まず、(2)では犬に対する「親愛の情(ласковость)」(Потиха: 248)あるいは「優しさ(нежность)」(Потиха: 248)が、また(3)からは、好物のイクラを前にした話し手の「感激(растроганность)」(Потиха: 248)が伝わる。(4)の例では、「お雪さん」に対する「同情(сочувствие)」(Виноградов: 101)が感じられる。また(5)では、「侮り(пренебрежение)」(Виноградов: 101)の感情的に否定的なニュアンスが表されていて、さらに(6)では「皮肉(ирония)」(Виноградов: 101)のニュアンスと共に話し手の「憎悪(злоба)」(Виноградов: 101)とでも言えるような強い否定的な態度が示されている。このような説明は、少なくとも可能な解釈として成り立つだろう。

但し、指小語の使用には広い意味での文脈が大きく関係するので(Лопатин 参照)、その意味をより正確に分析するためには文脈の考慮が不可欠であり、個々の語のみを対象にするような分析方法では、次のような発話における指小語の働きを正しく説明できない：

- (7)
- Сашенька, я хочу кое-что сказать тебе на ушко.*

ねえ、サーシャちゃん、ちょっと教えてあげたいことがあるから、耳貸して。

(7)では、指小語によって、「耳」に対する「小さい」「可愛い」といった話し手の評価が示されていない訳ではないが、「耳」に対するというよりも、それを身体の一部として持っている「サーシャちゃん」に対する話し手の肯定的な評価、具体的には「親愛の情」が示されているという解釈の方がより妥当だろう。このように、指小語によって示される話し手の評価は、しばしば指小語で表されている対象以外に向けられる。

さらに、指小語は、単に小さいことを示したり話し手の感情を表したりするだけではなく、コミュニケーション上の様々な働きを持つことも指摘されている。「大抵は、多くの働きが併存し」(Земская и др.: 112)、例えば、次の例では、「チーズ」や「ウォッカ」に対する肯定的な評価と共に、それらが差し向けられる「お客様方」に対する好意が示されていると解釈できる。これは、指小語による「敬意(уважение)」

(Гвоздев: 208)の表現、あるいは「愛想の良さ(слащавость)」(Гвоздев: 208)の現れとして捉えることも可能だろう：

- (8)
- Настенька, дочка, порежь сырку и принеси водочки для гостей.*

ねえ、ナースチャ、お客様方にチーズを切ってウォッカをお出ししてちょうだい。

指小接尾辞の様々な働きに関しては、とりわけ Volek が詳しく扱っている。⁷ 例えば、指小語は(9)のように「冗談めかした雰囲気あるいは親密さを作り出すため」(Volek: 167)や(10)のように「言及される現実全体の『緩和』」(Volek: 172-3)に用いられる等の指摘が見られる：

- (9) —
- Я могу быть свободным? — Н-да. ... Однако адресок обоих возьму.*
- (Volek: 167)
-
- 「自由にしてもらえますか?」「そうだな。……でも、
- 住所
- は両方とも聞いておくよ。」

- (10)
- Мало кто остался в живых... И моего сквозь котомку, сквозь белую рубашечку насквозь прострелили.*
- (Volek: 172)

生き延びた者は僅かでした……私の息子も、背負い袋越しに、白いシャツ越しに撃ち抜かれたんです。

指小語の使用に関して、意味的に矛盾があるように見える働きの指摘もある。その一つが、指小語は(11)のように正確さを示し限定を強める働きを持ちながらも、しばしば(12)のように近似性の表現と共に用いられる(Фенцова: 110-111 参照)点である：

- (11)
- Посмотреть бы на нее хоть через щелочку, хоть разок, чтобы...*
- ⁸

ほんの1目だけでも、ちょいと覗くだけでもいいから娘の顔を見て、……

- (12)
- Меня не будет денька три.*

私、3日ほど、居りませんので。

また、指小語は「小さい」ことを示すという基本的な働きを持ちながらも「並外れて大きい対象を示す」(Volek: 91)場合があることが知られている：

- (13)
- ...да, конечно, мы этого так не оставим, за такие штучки нужно морду бить, и...*
- ⁹

ああ、もちろんだ、このまま放っておきはしない。こんなひどい悪態をするやつには鼻面に一発食らわしてやらなきゃいけない……

Мандельштам (35) は、「指小接尾辞の働きが非常にバラエティーに富んでいる」ことを既に 100 年前に指摘し、「ある意味から別の意味への移行における観念の結びつきを創ることができない場合がしばしばあ

る」と、指小接尾辞の意味を説明することの難しさを述べている。その後もさらに多くの指小語の働きが指摘されてきたが、その大部分が現象面の記述に終始し、指小語が何故このように多様な働きを持ち得るのかという問題を解明する試みは殆ど為されてこなかった。そこで、本稿では、指小語の使用を総合的に扱い、異なる意味（働き）¹⁰ 間の結びつきを示すことによって、指小接尾辞の意味全体の整理を試みたい。

3. 言語の普遍性に基づくアプローチ

指小語の形成は世界の多くの言語に見られる言語現象であり、指小語によって示される意味に関して異なる諸言語の間に少なからぬ一致が見られる。このことは、現在までに再三言及されてきたが (Taylor: 144), 実際に、前章で挙げたロシア語の指小語に関する特徴の多くは、他の言語の指小語に関する研究でも指摘されている。従って、ロシア語の指小語を扱うに際し、他の言語における研究を参考にすることは理に適っており、実際、指小語の問題を通言語的に扱った研究が増えてきている。その中でも最も影響力を持つのは Jurafsky によるもので、彼は、60 以上に及ぶ言語の資料に基づき、図 1 のような放射状カテゴリー (Lakoff) によって指小語の意味の普遍的構造を提示した。

放射状カテゴリーは「ネットワークからなる知識構造」(大堀：90) で、「全てのメンバーが共通の性質を持つ必然性はなく」「一つの中心から他のメンバーが外れるというよりは、いくつかの二次的な中心（プロトタイプからのリンクが慣習化されたメンバー）が存在する」(大堀：46) という特徴を持ち、複雑な多義カテゴリーの説明に用いられる。従来、指小語の意味は一つの中心的な意味と他の様々な意味を結び付ける方法によって研究されてきたが、有益な結論を出すこ

とができなかった (Taylor: 147 参照)。指小語は、意味の拡張の方向が何通りにも広がった多義カテゴリーであり、その意味構造の記述に放射状カテゴリーを適用した点において、Jurafsky の功績は大きい。Jurafsky によると、図 1 のモデルは、指小語の意味変化のメカニズムを説明し、その多義性を解明するものである。図の中心部には、「子供」と「小さい」が中心メンバーとして太い輪郭で明示され、この二つの中核的な意味に他の様々な意味がメタファー、推論、一般化などの動機づけによって結び付けられていることが矢印で示されている。例えば、指小語の「侮り」の意味は「小さい」から生じたものであり、その「小さい」は「子供」から生じたものであると捉えられる。

この Jurafsky の研究に対しては目立った批判は見当たらず、図で示されている指小語の持つ個々の意味間の動機づけは概ね正しく分析されているものと見なすことができる。Jurafsky は、異なる言語間に共通する点に視点を向け、指小語の意味の枠組みを「一種の概略的なカテゴリー」(Jurafsky: 543) として示すことに成功したと言えよう。しかし、個々の言語に固有の特性もあると考えられるのであって (Jurafsky: 571), 言語間に見られる共通点だけでなく差異に関しても注意を払う必要がある。Jurafsky のような言語普遍性に基づくアプローチと本稿のような一つの言語を対象とする研究は、指小語の意味を真に理解する上で共に重要であり、互いに補い合うべきものである。Jurafsky の研究は、指小語を「大まかに」扱った研究で、その分析対象は「少なくとも『小さい』ということの意味するあらゆる形態的装置」(Jurafsky: 534) とかなり広く、品詞も区別せず名詞・形容詞・動詞を一括して扱っている。Jurafsky とは反対に、本稿では指小語を「細かく」扱う。指小語の意味の構造をより正確に分析する手段として、分析の対象を名詞に用いられる指小接尾辞のうち形態的に最も単純で且つ生産性の高

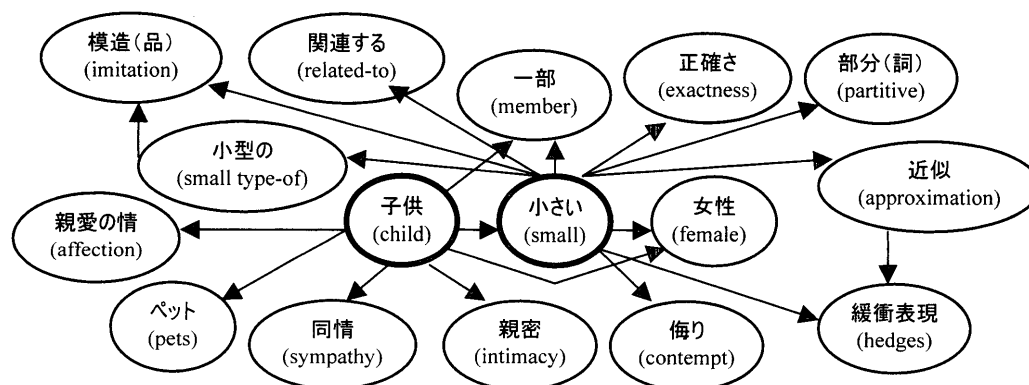


図 1. 指小語の意味の普遍的構造 (Jurafsky: 542)

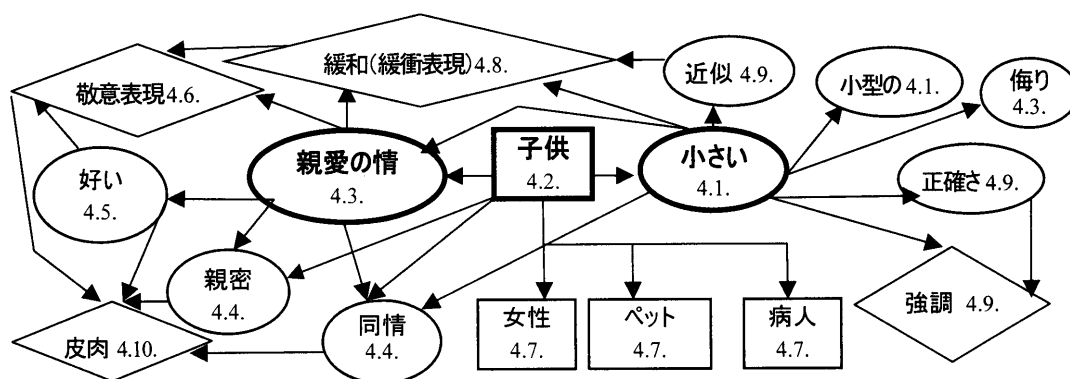


図 2. 指小接尾辞 $\#_K(-)$ の意味構造¹²

い- $\#k(-)$, すなわち $-OK$, $-k(a)$, $-k(o)$ に限定する。このような本稿の試みは、逆に Jurafsky の仮説を検証する試みでもある。

図2は、図1として挙げた Jurafsky のモデルを出発点とし、筆者がロシア語の指小語 -#k(-) の意味の構造をまとめたものである。Jurafsky のモデルとの最大の違いは、「親愛の情」を中核的な意義として捉えた点にある。さらに Jurafsky は指小語の意味の要素を全て楕円で示したが、本稿では、指小接尾辞が示す概念は楕円のまま残し、指小語の語用論的手段としての働きを菱形で示し、また指小語の使用と密接に結びつく具体的な対象を四角で示して区別することを提案する。¹¹ 次章では、図2に示されている個々の要素とその意味間の結びつきを一通り見ていく。要素と共に書かれた数字は、其々の要素が（主として）扱われる節である。図2全体のより詳しい説明は稿を改めて行うこととして、本稿では、この「親愛の情」を中核的な意味として捉えた図2が、指小接尾辞 -#k(-) の多義性を矛盾なしに説明し得るモデルであることを示し、指小接尾辞 -#k(-) が表愛接尾辞であるという主張を行いたい。

4. 分析

4. 1. 「小さい」と「小型の」

指小接尾辞 -#к(-) に特徴的なのは、他の指小接尾辞と比較して感情性が低く、感情的に中立の表現として純粋に指示対象の大きさや程度が小さいことを示すことができるという点である ((1)参照)。次の(14)の сумочка, кастрюлька, платочек は、それぞれ сумка「鞆」、кастрюля「鍋」、платок「スカーフ」の指小語である：

- (14) Вчера я купила сумочку, кастрюльку и платочек.

昨日、小さな靴と小さい鍋と小ぶりのスカートを買ったんです。

сумочка, кастрюлька, платочек は、また「ハンドバッグ」「小鍋」「ハンカチ」を示す最も一般的な語としても用いられる。これは、「最初は『小さい』ことを示していたのが次第に指小語の形式が頻繁に用いられるようになり語彙化の方向に動き出すまでに至った」(Jurafsky: 552-553)ものと推測でき、¹³「小さい」から「小型の」への意味の派生として捉えられる。¹⁴

4. 2. 「子供」

従来の多くの研究では、指小語の「小さい」ことを示す働きが最も根源的であると考えられてきた。これに対し、Jurafsky は、指小語の中核的な意味を「子供」であるとする。「意味は、物理的・具体的・実在的なものからより抽象的・一般的・質的なものへと変化する」(Jurafsky: 540) という意味変化のメカニズム等多くの根拠を挙げた彼の主張には、説得力がある。本稿でも「子供」を指小語の中心に置き、指小語の使用と最も密接に結びつく具体的な対象として捉える。他の多くの言語と同様 (Dressler and Barbaresi: 174 / Wierzbicka 参照) ロシア語でも、「子供」は指小語の使用と強く結びついている。指小語は、以下の例に見られるような子供に対する発話 (例(7)も参照)、あるいは子供に関する発話の中で特に頻繁に用いられる：

- (15) *Смотри, какой у этой пары хорошенький ребенок! И ручки и ножки такие пухленькие!*

見て、このカップルの赤ちゃん、すごく可愛いわ！ 手も足もまあよく肥って！

- (16) Давай, Ирочка, посидим на крылечке,
попьем горяченького молочка и почитаем
книжечку.

イーラちゃん、入り口のところに座って、熱い

牛乳飲んでからご本を読もうか。

指小語が子供に関係して用いられる場合は、また、他の場合とは異なり過度の使用として咎められることもなく、使用の制限も緩い。例えば(16)の「牛乳」や「ご本」は量的あるいは形状的に大きい場合にも抵抗なしに用いられる。

4. 3. 「親愛の情」と「侮り」

このように、指小語の使用の中心は子供に対する発話であるという Dressler and Barbaresi (174) の指摘は、ロシア語の指小接尾辞 -#k(-) についても当てはまると思われるが、注目すべきは、その多くの場合に「親愛の情」が表されるという点である ((7), (15), (16))。話し手が聞き手あるいは話題の人物である子供に対して指小語を多用するのは、指小接尾辞に「親愛の情」を示す働きが存在するためであると考えられる。Jurafsky は、「親愛の情」を二次的なメンバーとして扱っている。しかし、筆者は、ロシア語の指小接尾辞 -#k(-) に限定した場合は、「親愛の情」を「小さい」と同様に中核的な意味として捉えるべきであると考ええる。従来、指小語の「親愛の情」を示す働きは、「小さいものが可愛らしいのは常である」(Аксаков: 63-64) 等と「小さい」との結びつきによって説明されてきた (Popov: 34 参照) のに対し、Jurafsky は、それが「子供」から派生したと捉えている (Jurafsky: 551-552)。「子供」は「小さい」とは異なり具体的で人間に表愛の感情を呼び起こしやすい対象であることを考慮すると、確かに「親愛の情」は「小さい」よりも「子供」とより直接的に結びついていると考えた方が自然である。

一方で、また指小語は、(5)や次の(17)のように「侮り」の意味を示すことができる：

(17) — Ну и кем она работает? — Да так, телефонисточкой.

「それで、その女の人、どんな仕事してるの？」

「ああ、電話の交換手だよ。」

「小さいものは蔑みに値する」(Popov: 34) ことから、「侮り」が「小さい」から派生したものであることには、Jurafsky を含め、研究者間に見解の一致が見られる。「小さい」ことは、感情的に否定的に捉えたと「侮り」に繋がる。反対に、「小さい」ことを肯定的に捉えたと「可愛い」「愛らしい」といった「親愛の情」に繋がるので、「親愛の情」の「小さい」との結びつきもまた、存在しないとは言い切れない。

指小接尾辞 -#k(-) は、このように、感情的に肯定的にも否定的にも用いられ、その感情性に矛盾を孕んで

いるように見える。従来、指小接尾辞 -#k(-) は、「それ自体表愛的でも表卑的でもなく」(Popov: 87)「単に指小を示すものであり、その他のいかなる特性も存在しない……従って、……指小以外に別の意味を持ち得るか否かは文脈のみに依存する」(Popov: 34) 等と感情的に中立であると考えられてきた (Volek: 58-60 参照)。しかし、筆者の考えでは、指小接尾辞 -#k(-) は、単に「小さい」という意味を持っているだけではなく、それ自体が表愛的である。その根拠としては、まず、指小接尾辞 -#k(-) は、典型的には肯定的に用いられ、否定的に用いられる場合は稀である (Русская грамматика: 208, 210, 212) ことが挙げられる。さらに、指小接尾辞によって示すことのできる感情的に否定的な意味ニュアンスが「侮り」のように「小さい」という概念に基づくものに限定されるのに対し、感情的に肯定的に用いられる場合は、その表す意味ニュアンスは様々である。典型的には「小さい」と結びついた「親愛の情」が示されるが、常に「小さい」と直接関係しているとは限らず「表現性の高い表愛の意味のみを持つ」(Русская грамматика: 208, 210) 場合もある ((3))。また、上で述べた指小語の評価が示されている対象だけではなくその所有者や発話の聞き手などに拡がる現象は ((7), (8), (15), (16))、感情的に肯定的な使用において圧倒的に多く見られ、否定的な使用は、ごくまれに見られるに過ぎない。

指小接尾辞 -#k(-) が肯定的な感情性を持つという根拠は、さらに別の観点からも述べることができる。ロシア語の指小接尾辞には、-#k(-) のように1つの接尾辞から成る単純接尾辞のみならず、同一の若しくは異なる指小接尾辞を2重あるいは3重に用いる複合接尾辞がある。-#k(-) を最終段階の接尾辞として用いる複合接尾辞 -чк- (-очек, -очка, -ечко, -ичка), -ишечка, -ушечка は、何れも普通、表愛接尾辞として扱われ、形成された指小語は殆どの場合に肯定的な意味を持つ：

(18) дуб → дубок → дубочек

пижама → пижамка → пижамочка

дом → домишко → домишечко

мальчик → мальчишка → мальчишечка

дубочек と пижамочка については、-#k(-) が2重に用いられ、その結果として -#k(-) の働きが強まったものと説明できる。一方、домишечко と мальчишечка に関しては、表卑接尾辞 -ишк- によって否定的な意味合いを帯びた一段階目の指小語に -#k(-) を付加して形成されたものであるが、もはや否定的な意味合いは感じられず、反対に肯定的な評価が示されている。この

ように、二つ目の指小接尾辞として用いられている $-#k(-)$ は、否定的な評価を肯定的な評価へと変える働きをしていることになり、それ自体肯定的な感情性を持っていると見なさないわけにはいかないだろう。

以下でも、指小接尾辞 $-#k(-)$ の他の使用を見ることで、それが肯定的な感情性を持つことの根拠をさらに示していく。

4. 4. 「同情」と「親密」

「同情」を示す働きについては(4)で触れたが、小ささが弱さ・はかなさと結びつくこと、人の心に「同情」を呼び起こすのはそのような性質であることから、この働きが「小さい」及びその典型である「子供」に基づくと推測できる。しかし、「同情」は、また「親愛の情」とも結びつく。なぜなら、「同情」は「小さい」ことを否定的であると認めた上で、対象に対する肯定的な感情的評価、「親愛の情」を示す表現であるからである。

一方、「親密」は「小さい」こととの直接的な繋がりが無く、「子供」及び「親愛の情」と強く結びついているのは明らかである ((9))。既述のように、子供には親愛表現として指小接尾辞が多用され、暖かく「親密」な雰囲気を作り子供に愛情を伝えるのに役立つ。恋人に対して指小語が頻繁に用いられるのは (Dressler and Barbaresi: 193-197 参照)、親が子供に対する場合と同様で、「親密」な関係の強調と愛情の表現のためである ((21)も参照)：¹⁵

(19) *Дай, в щечку поцелую.*

ねえ、ほっぺにキスさせて。

4. 5. 「好い」

例(3)及び次の発話では、指小語で示された「イクラ」や「セーター」に対する話し手の肯定的な評価が感じられるが、これらの場合、指小語の使用と対象の量や大きさとは関係が無い：

(20) *Где ты купила этот свитерок?*
Необычный и симпатичный.

このセーター、どこで買ったの？ 変わったデザインで素敵ね。

これらの肯定的な評価を「親愛の情」とすることも可能だろうが、本稿では、より一般的に肯定的な評価として捉え、「好い」という意味として示す。以上で見たように、指小接尾辞 $-#k(-)$ は多くの場合に肯定的な評価を伴い、それは「親愛の情」を中心としながらも様々な意味ニュアンスとなって現れる。ロシア語話者は、このような指小語の特徴を経験的に知っていて、

その頭の中では、指小接尾辞 $-#k(-)$ と「好い」ことが結びついていることが推測できる。このように、接尾辞が「好い」という意味を持つことは、接尾辞自体が肯定的である、すなわち指小接尾辞 $-#k(-)$ が表愛接尾辞であるという本稿の主張に繋がるものである。

4. 6. 「敬意表現」

ロシア語では、指小語が一種の「敬意表現」に用いられる ((8), (26)も参照)。サービス業従業者等の「弱い」立場にある人物の発話に特徴的に見られ、聞き手に関係する対象を指小語で示すことが、間接的に聞き手に対する肯定的評価の表明に繋がり、それが「敬意表現」として定着したものと捉えることができる (中尾 2002)。Jurafsky (571) は、その生じた過程が不明であるとしてこの働きを扱わなかったが、「敬意」と「親愛の情」が直接的に結びつくことは、中尾 (2002: 88) で述べたとおりである。

4. 7. 「女性」「ペット」「病人」

次の(21)から(23)の例は、それぞれ女性、ペット、病人に対して為された発話である：

(21) *Да, ты прекрасна! А какие чудесные у тебя ямочки на щеках — словами не передать... Подойди же ко мне, О-Нака!*¹⁶

おまえはきれいだ、そのえくぼがなんともいえないよ、おなか、こっちへおいで

(22) *Только конечно чистить клеточку им надо. Когда песочек кладем, то неделю не чистить клеточку. ...Только иногда они линяют и летят перышки или пушок летит от них тогда...*(Земская и др.: 113)

もちろん籠はきれいにしてあげないと。砂を入れたら、籠は一週間掃除しなくてもいい。ただ、たまに毛替わりして、羽根が飛んで、毛が舞うことがあるので、そんな時は、……

(23) *Лопушок пьет?* (Земская и др.: 113)

ゴボウの煎薬、お飲みですか？

女性、ペット、病人は、いずれも指小語を用いた発話の受け手になりやすいという指摘が再度にわたって為されている (Земская и др.: 113 参照)。これらは、全て子供からのメタファーとして捉えられる。すなわち、女性と男性、ペットと主人、病人と医者、それぞれの関係は、「小さい」者と「大きい」者、守られるべき者と守るもの、すなわち子供と大人の関係と類似している (Jurafsky: 546 / Dressler and Barbaresi: 191-193 参照)。このように、女性、ペット、病人が発話

の受け手となる際の多くの場合、指小語の働きは、「子供」の場合と同様受け手に対する「親愛の情」の表出であると考えられる。

図2では、典型的な例として女性、ペット、病人のを取り上げたが、これらが特別というわけではなく、「子供」に存在する特性を持つ対象は、指小語を用いた発話の受け手になりやすいと言える。例えば、恋人(19)は「子供」のように可愛い対象と言えるし、警官にとって逮捕した違反者(9)は「子供」と同様に庇護すべき対象である。

4. 8. 「緩和（緩衝表現）」

例(10)でも触れたように、指小語は、表現の緩和の働きを持つ。感情的に否定的な意味を持つ語や粗野なニュアンスを持つ語と共に -#k(-) が用いられると、しばしば、その語の持つ否定的なニュアンスが緩和される ((4)も参照)：

- (24) Я считаю дурачками, идиотиками людей, которые упираются, не хотят, сопротивляются. (Фенцлова: 110)

私は、我が強く他人の意見を聞かず反ばかりする人はばかりで阿呆だと思ふ。

「ばかり」という語自体は否定的であっても、もとの語 дурак と比較すると、軽視のニュアンスは些か強まっていると言えなくもないが、もはや攻撃的で粗野なニュアンスは感じられない。¹⁷ これは、否定的な度合いが「小さい」と示されていると解釈できるが、同時に「親愛の情」が表現の緩和に役立っていることも指摘しておく必要があるだろう。

これに関連して、指小語が「緩衝表現」として用いられることが指摘されているが (Jurafsky: 556-558)、本稿では、これを「緩和」の働きに含める。指小語は、助言(25)や依頼(26)などの発話行為を行う場合に用いられた場合、相手の肉体的・精神的負担を「小さい」と示すのに働く：

- (25) Тебе бы галстучек с пиджачком надеть.
あなた、ネクタイ付けてジャケット着た方がよくない？

- (26) Погодите минутку!

ちょっと (1分) お待ち下さい！

このような場合、負担の軽減と同時に相手に対する「親愛の情」を典型とする肯定的な態度も示され、相手に対する丁寧さの表現に繋がる (中尾 2002: 85 参照)。

4. 9. 「近似」、「正確さ」、「強調」

指小語が限定を強める表現と弱める表現の両方に用

いられることは2章で触れたが、まずは後者から見よう。(12)は、「名詞+数詞」の基本的でない語順を用いることで既に近似性が現れている発話に指小語が用いられたもので、このような場合、指小語の使用によって発話内容はさらに大まかなものとなる。これは、「小さい」ことが重要でないことと結びつき、慣習的に近似性の表現と共に用いられるために指小接尾辞自体が「近似」の意味を得る方向に動き出すまでに至ったものと考えられる。「緩衝表現」として挙げた例(20)は、「近似」の表現でもある。この場合、重要なのは時間が短いということであって正確に「1分」であることは表されていない。

一方、限定を弱める表現として挙げた例(11)では、2回や3回ではなく「1回」であることの「正確さ」が示され、それが「強調」されている。これは、もともと「小さい」という意味を持つ語にさらに「小さい」ことを示す指小接尾辞が付加することで、結果として限定を強めた表現となったものと捉えられる。従って、「正確さ」を示す「強調」の働きは、「『小さい』という意味に直接動機づけられるメタファーによる強調」(Jurafsky: 551)に限られる：

- (27) Погода ясная, небо без облачка. (Фенцлова: 110)

晴れ晴れしていて、空には雲一つ無い。

指小接尾辞 -#k(-) は、また、(13)のように「大きい」ことを強調する場合もある。このような指小接尾辞の使用は、「過小誇張法」(Виноградова: 80)、「量に関する再評価」(Volek: 102)等と呼ばれる、現実と反対の陳述をわざと行うことによって表現性を高める語用論的な手法と言え、指小接尾辞の中核的意味の一つである「小さい」に基づくものである。

4. 10. 「皮肉」

「皮肉」は、Jurafsky では扱われていないが、指小語の最も重要な働きの一つである。(6)では、指小語は、話し手の対象に対する強い否定的な評価の表現に用いられているが、これは、否定的な評価という点では同じでも「小さい」という意味に基づく「侮り」のようなニュアンスとは異なる。一見、このような否定的な評価の表現は、指小接尾辞が肯定的な意味を持つこととは矛盾するように見えるが、これは、純粋な語用論的手段である「皮肉」によるものであり、指小接尾辞自体が否定的な評価を与えているのではない。むしろ、指小接尾辞が肯定的な感情的意味を持っていることに基つき、それを利用した表現である。¹⁸

5. 結び

以上、本稿では、指小接尾辞 -#к(-) の意味の構造に関する考察を行った。-#к(-) の働きの大部分について言及し、整理して -#к(-) の全体の意味構造を示した。その中で、特に感情性の問題を取り上げ、指小接尾辞 -#к(-) がそれ自体として肯定的な評価を持つ表愛接尾辞であり、「親愛の情」を「小さい」と同様に中核的な意味として見なすべきであるという主張を行った。

本稿では、スペースの制約により、指小接尾辞 -#к(-) が持つ其々の働きについて詳しく述べる事ができず、図2として提示した指小接尾辞 -#к(-) の意味構造のモデルは、なお十分な説得力を持つとは言えない。しかし、少なくとも、このモデルが指小接尾辞 -#к(-) の複雑な多義カテゴリーを矛盾無く説明することを可能とするものであることは示すことができたと考えている。

(なかお ゆうこ・同志社大学)

注

- ¹ -#к(-) の「#」は、結びつく語の性・数・格などによって「o」(あるいは「e」)が挿入されることを意味し、また語尾が現れる場合と現れない場合があることを「(-)」で示すものとする。指小接尾辞の分類は研究者によって様々に行われているが、-#к(-) が名詞に用いられる指小接尾辞のうち最も基本的であるという点については、見解の一致が見られる。但し、男性名詞に用いられる最も基本的な指小接尾辞に -ок(-ек) 以外に -ик および (あるいは) -чик を -ок のヴァリエーションとして加えられる場合もある。実際、中尾 (2002/2003) は、この立場をとったものである。しかし、本論文にはより厳密な立場が求められるので、今回は、-ик および -чик を分析の対象から除外する。さらに、本稿で扱う3つの接尾辞の形式 -ок、-к(a)、-к(o) の間に意味的な差異が全く存在しないとは言えないという問題が残るが、本稿では、その差異は極めて小さいものと見なし一括して扱う。また、人の名前や親族名称に用いられる場合 (Игорек<Игорь, мамка<мама) は扱わない。
- ² 用例には、指小接尾辞 -#к(-) を用いたもののみを挙げ、それによって形成された指小語を下線で示す。他の研究者の用例や文学作品からの引用を含み、その場合は例文の横あるいは注に引用箇所を示す。それ以外の例は、筆者が作成し、少なくとも3名のネイティブスピーカーによってロシア語の日常会話での使用が可能な表現として認められたものである。
- ³ (主観的) 評価の接尾辞は、研究者によって様々に捉えられている。参考までに、Гвоздев (210-214) に挙げられているものを以下に記す： 1. 指小・表愛接尾辞 ① 小ささを示すことができるものとして、-ок/-ек、-к-а、-к-о、-ец。② より表現性の高いものとして、-ец、-ц-а、

- (е)цо、-ц-е、-ик、иц-а、-чик。③ 複合接尾辞として、-очек、-очк-а/-ечк-а、-ечк-о、-ичк-а、-ушк-а、-ышк-о、-оньк-а、-ус-я、-ул-я。 2. 表卑接尾辞として、-ишк-а、-ишк-о、-енк-а/-онк-а、-к-а、-ушк-а。 3. 指大接尾辞として、-иш-а、-иш-е、-ин-а。
- ⁴ 山本周五郎『赤ひげ診療譚』のロシア語訳 *Ямамото С. Красная борода*. (Перевод Раскиной Б.) М.: Радуга, 1990. С. 20 より。原文の対応箇所を記す (新潮文庫 (1985))。但し、括弧内は筆者が追加した。
 - ⁵ *Стругацкий А., Стругацкий Б.* За миллиард лет до конца света (1977) // Собр. соч. Т. 7. М.: Текст, 1993. С. 296. 日本語訳は、深見弾訳『世界終末十億年前』群像社 (1989) より。
 - ⁶ *Стругацкий А., Стругацкий Б.* За миллиард лет ... С. 250. 注5を参照。
 - ⁷ 但し、Volek の分析は、Dressler and Barbaresi (29-31 他) によって批判されているように、指小接尾辞の感情性を実際以上に重要な要素として捉えていて、全体を通して主観的な面が目立つという欠点がある。
 - ⁸ *Распутин В.* Последний срок (1970) // Повести и рассказы. М.: Современник, 1985. С. 487. 日本語訳は、安岡治子訳「アンナ婆さんの末期」『現代のロシア文学5 ラスプーチン』群像社 (1984) より。
 - ⁹ *Стругацкий А., Стругацкий Б.* За миллиард лет ... С. 323. 注5を参照。
 - ¹⁰ 「意味」と「働き」は、研究者によって様々に用いられているが、接尾辞が持つ意味とは働きのことであると考え、本稿では特に区別せずに用いる。一般に狭い意味で用いられる場合の「意味」すなわち意義は、本稿では「中核的な意味」に対応する。
 - ¹¹ Jurafsky は、「小型の」「模造 (品)」「関連する」「一部」「正確さ」「部分 (詞)」「近似」を意味論の意味として、「親愛の情」「ペット」「同情」「親密」「侮り」「緩衝表現」を語用論の意味として、「子供」「小さい」「女性」を意味論と語用論の両方に関わるものとして捉えている。
 - ¹² 共時的な立場からの研究である点及び分析の対象を限定した点で、本稿は Jurafsky の研究と異なり、図1と図2を単純に比較することはできない。例えば、図1に存在する意味の要素「一部」「模造 (品)」は図2に含まれていないが、これは、本稿では指小語を狭く扱ったためであり、それらの意味を接尾辞 -#к(-) が表すことができないという訳ではない。
 - ¹³ 指小語の語彙化が進んだ例として、ножка「(机等の) 脚」(<нога「足」)のようにメトニミーによって指小語が元の語とは別の対象を示すようになったものや бутылка「瓶」(<бутыл「大瓶」)のように現在では元の語よりも指小語の方が普通に用いられるようになったものがある。このような形式上のみの指小語は、本稿では扱わない。
 - ¹⁴ 但し、指小語の語彙化の度合いは個々の指小語によって異なり、例(14)にも見られるように語彙化の過程にある指小語も数多く存在し、「小さい」から「小型の」への意味の移行は極めて自然で両者の意味の違いは曖昧である。

- ¹⁵ 「親密」には、指小語が極めて口語的で親しい間柄で用いるのに相応しい語形であることも関係すると思われる。
- ¹⁶ Ямамото С. Красная борода. С. 61. 注 4 を参照。
- ¹⁷ 日本語で接辞付加によって「ばか」を「おばかさん」とした場合と同種のニュアンスである（中尾 2003: 44）。
- ¹⁸ 筆者の考えでは、指小語による「皮肉」の表現の裏には、「親愛の情」に基づく「好い」「親密」「同情」「敬意表現」の少なくとも何れかが存在する。指小語の「皮肉」の働きについては、別の機会に詳しく述べたい。

引用文献

- Аксаков, К. С. 1980. *Опыт русской грамматики*. Полн. собр. соч. Т. 3. М.
- Виноградов, В. В. 1986. *Русский язык (грамматическое учение о слове)*. 3-е изд. М.: Высшая школа.
- Виноградова, В. Н. 1984. *Стилистический аспект русского словообразования*. М.: Наука.
- Воротников, Ю. Л. 1988. “Милое и малое.” *Русский язык в школе*. 6: 62–66.
- Гвоздев, А. Н. 1973. *Современный русский литературный язык*. Часть 1. М.: Просвещение.
- Земская, Е. А., Китайгородская, М. В., Ширяев, Е. Н. 1981. *Русская разговорная речь*. М.: Наука.
- Лопатин, В. В. 1987. “Словообразование средства субъективно-оценочной прагматики высказывания и текста.” В кн.: *Русский язык (Языковые значения в функциональном и эстетическом аспектах)*: 143–161. М.: Наука.
- Мандельштам, И. Е. 1903. “Об уменьшительных суффиксах в русском языке со стороны их значения.” *Журнал министерства народного просвещения*. 7: 34–66, 8: 317–353. СПб.
- Потиха, З. А. 1970. *Современное русское словообразование*.

- М.: Просвещение.
- Русская грамматика* 1980. Т. 1. М.: Наука.
- Фенцлова, М. 1985. “Взаимоотношение контекста и функций диминутивной суффиксации в русской разговорной речи в сопоставлении с чешской.” *Československá rusistika*. 30–3: 109–115.
- Шахматов, А. А. 2001. *Синтаксис русского языка*. 3-е изд. М.: Эдиториал УРСС.
- Dressler, W. u. and Barbaresi, L. M. 1994. *Morphopragmatics: Diminutives and Intensifiers in Italian, German, and Other Languages*. Berlin; New York: Mouton de Gruyter.
- Jurafsky, D. 1996. “Universal Tendencies in the Semantics of the Diminutive.” *Language*. 72–3: 533–578.
- Lakoff, G. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago: University of Chicago Press.
- Popov, E. A. 1967. *The Semantic Structure of the Russian Diminutives*. A Dissertation. Stanford University.
- Taylor, J. R. 1995. *Linguistic categorization*. Oxford University Press.
- Volek, B. 1987. *Emotive Signs in Language and Semantic Functioning of Derived Nouns in Russian*. Amsterdam; Philadelphia: John Benjamins.
- Wierzbicka, A. 1984. “Diminutives and Depreciatives.” *Quaderni di Semantica* 5–1: 123–130.
- 大堀壽夫 2002 『認知言語学』, 東京大学出版会.
- 『言語学大辞典』1996, 第 6 巻 (術語編), 亀井孝他編, 三省堂.
- 中尾裕子 2002 「丁寧さを表す手段としての指小接尾辞の使用」, 『ロシア語ロシア文学研究』34 : 83–91.
- 2003 「ロシア語における指小接尾辞と日本語の接頭辞『オ-』の対照研究」, 『ロシア語研究』16 : 27–49.

Юко НАКАО

Семантическая структура диминутивного суффикса -#к(-)

Многие исследователи неоднократно отмечали полисемантический характер диминутивного суффикса -#к(-), однако попытка упорядочить семантическую структуру данного суффикса в целом почти не предпринималась. Не проводилось и описание того, как связаны между собой присущие суффиксу разнообразные и противоречивые функции: ласкательная и уничижительная, уменьшительная и увеличительная, смягчающая и усиливающая и т. п.

По представленной нами в настоящей статье модели семантической структуры диминутивного суффикса -#к(-), связи между разнообразными значениями и оттенками, присущими данному суффиксу, объясняются без противоречия. Важнейшей особенностью данной модели является то, что в основные функции диминутивного суффикса -#к(-) включается, наряду с указанием на малый размер, количество и т. п., выражение ласкового отношения. Диминутивный суффикс -#к(-), неоднократно описанный как «семантически двусмысленный» (Volek: 58–9), на самом деле является эмоционально положительным и принадлежит к категории ласкательных суффиксов.